



あなたの未来を守るライフスタイル情報誌

乳酸菌 PRESS

 NO.2 3
 2017
 MARCH

INDEX

 NEWS 01 予防歯科のトップランナー『日吉歯科』酒田診療所…P.1
 NEWS 02 熊谷直大所長 インタビュー ……P.2
 NEWS 03 健大高崎高校を訪問 ……P.4
 NEWS 04 全日本野球協会野球指導者講習会 ……P.5

 NEWS 05 (宮城県)秀光中等教育学校 訪問…P.6
 NEWS 06 お客様の声 ……P.7
 NEWS 07 ペルマークのお知らせ ……P.7
 NEWS 08 LS1 ショップからのお知らせ ……P.8

 NEWS 09 コイケヤスナック菓子紹介 ……P.8
 NEWS 10 雑誌掲載 ……P.8

「口腔のケア」が全身の健康を保つ、QOL向上の隠れた重要分野であることはあまり知られていない。実は、ここ酒田市には市人口(約10万5,000人)の3割が受診し、1割以上が定期的なメンテナンスに通う日吉歯科診療所がある。37年前から虫歯や歯周病の発症・再発を予防する医療プログラムを実践。「庄内地域に住む人々の口腔内の健康状態を世界一にする」というビジョンを掲げ、「(虫歯や歯周病に)ならないために通う」歯科医像を確立した熊谷崇理事長に、なぜ予防医療が望ましいのか、話を伺った。

「口腔のケア」が全身の健康を保つ、QOL向上の隠れた重要分野であることはあまり知られていない。実は、ここ酒田市には市人口(約10万5,000人)の3割が受診し、1割以上が定期的なメンテナンスに通う日吉歯科診療所がある。37年前から虫歯や歯周病の発症・再発を予防する医療プログラムを実践。「庄内地域に住む人々の口腔内の健康状態を世界一にする」というビジョンを掲げ、「(虫歯や歯周病に)ならないために通う」歯科医像を確立した熊谷崇理事長に、なぜ予防医療が望ましいのか、話を伺った。

湖

池屋・乳酸菌LS1にとって「予防歯科」と向き合うことは大変重要なテーマです。

「乳酸菌PRESS」では予防歯科の世界的権威である熊谷崇氏が理事長を務める医療法人社団・日吉歯科診療所を「あしたのコミュニティーラボ」(<http://www.ashtila-lab.jp/>)の協力の元、2回に渡りご紹介していきます。(あしたのコミュニティーラボ「予防医療があなたの生涯を変える」メンテナンス重視の医療に取り組む日吉歯科診療所」より転載)

「口腔のケア」が全身の健康を保つ、QOL向上の隠れた重要分野であることはあまり知られていない。実は、ここ酒田市には市人口(約10万5,000人)の3割が受診し、1割以上が定期的なメンテナンスに通う日吉歯科診療所がある。37年前から虫歯や歯周病の発症・再発を予防する医療プログラムを実践。「庄内地域に住む人々の口腔内の健康状態を世界一にする」というビジョンを掲げ、「(虫歯や歯周病に)ならないために通う」歯科医像を確立した熊谷崇理事長に、なぜ予防医療が望ましいのか、話を伺った。

「痛くなったら治療する」は悪循環

虫歯や歯周病になったら歯医者にかかる。しかし治療が終わって痛みが引くと、いつのまにか口のなかのことは忘れ、ふだんの歯磨きもおろそかになりがちに。その繰り返しで、歳をとった入れ歯やインプラントに頼らざるを得なくなる。大半の人が陥っているそんな悪循環を断ち切ろうと「予防医療」に傾注する歯科医院が山形県酒田市にある。熊谷崇さんが理事長を務める医療法人社団日吉歯科診療所だ。

日吉歯科の初診では、すぐ治療には入らない。まずは「検査」と「説明」からはじまる。歯周病検査を行い、口腔内写真とレントゲン写真を何枚も撮って、1本1本の歯の状態を確認する。唾液検査で虫歯や歯周病になりやすいリスクを判定。必要な場合は痛みを止めるなどの応急処置が施され、正しい歯磨きのしかたを指導する。次の来院で検査結果が説明され、患者が自身の口腔内の状態を知ったうえで、歯科衛生士がバイオフィーム(菌膜)を除去し、口腔を清潔にして治療可能な



Profile

熊谷 崇さん

1942年生まれ、東京都出身。日本大学歯学部卒業。1980年山形県酒田市に開業(日吉歯科診療所)。マルメ大学名誉博士号、日本大学客員教授、東北公益文科大学理事。虫歯や歯周病の進行を防ぐ『予防』の分野で『革命的』とすら評される実績を残してきている。痛みを治す歯医者ではなく、痛くならないための歯医者を目指している。関連書籍：歯を守れ！予防歯科に命を懸けた男(日吉歯科診療所・熊谷崇の挑戦)

転載：あしたのコミュニティーラボ 撮影：川本聖哉

vol.1

『プロフェッショナル—仕事の流儀—』
『カンブリア宮殿』に登場！

予防歯科の世界的権威 熊谷 崇理事長率いる「日吉歯科」で LS1の試食展示を始めました。



転載：あしたのコミュニティーラボ 撮影：川本聖哉

治療して終わりではないところが「予防歯科」の真骨頂。初診時に比べ口腔内の状態がどれだけ改善したか、再検査で確認し、患者に説明する。その後は改善した状態を維持するため、ふだんの歯磨きでは取り除けない歯石除去やクリーニング、フッ素塗布などの定期的なメンテナンスへと移行。その頻度やプログラム内容は、患者の口腔内の健康状態や抱えているリスクに応じて1人ひとり違う。もちろん日頃の歯磨きやデンタルフロスによるケアも怠らないように促す。

ここまで徹底して虫歯や歯周病の原因を突き止め、取り除き、治療したうえでメンテナンスを重視する歯科医は全国的にも珍しい。だが熊谷さんは「ライセンスを持つ歯科医師として当然やるべきことをしているだけ」と明言する。「もちろん歯医者には患者さんの歯を治療するのが、検査・診断・治療・メンテナンスのプロセスを通じて虫歯や歯周病を再発しないように予防することがもっとも重要な仕事です。歯をなくした患者さんに、上手な入れ歯を提供するのが歯医者の本分ではない。もともと歯を80年以上もたせられれば、何でもおいしく食べられ、全身の健康が維持されて、最高のQOL(生活の質)を得られます。現在、高齢で亡くなる人の歯はほとんど自分の歯ではありません。命の寿命と歯の寿命を逆転させたい。それが臨床医としての最大の目標です」

再発を予防するのが歯科医

再発を予防するのが歯科医

治療して終わりではないところが「予防歯科」の真骨頂。初診時に比べ口腔内の状態がどれだけ改善したか、再検査で確認し、患者に説明する。その後は改善した状態を維持するため、ふだんの歯磨きでは取り除けない歯石除去やクリーニング、フッ素塗布などの定期的なメンテナンスへと移行。その頻度やプログラム内容は、患者の口腔内の健康状態や抱えているリスクに応じて1人ひとり違う。もちろん日頃の歯磨きやデンタルフロスによるケアも怠らないように促す。

次号の「予防歯科の世界的権威・熊谷崇理事長率いる『日吉歯科』でLS1の試食展示を始めました」VOL.2へ続く

現在、富士通が開発した「歯の健康ファイル」というクラウド上のサービスを活用して、初診からメンテナンスに至るまでのレントゲンや写真、むし歯や歯周病のリスクなどの検査結果を、患者さんに情報提供できるシステムの稼働を開始した。そうすることによって、口腔内の情報が身近になり、治療、メンテナンス、患者のホームケアの質が問われるようになる。また、平田牧場、富士通を始め、多くの企業が社員のためにメンテナンスの費用を福利厚生として補助しており、その他準備中の企業も多々ある。同制度は、湖池屋でも2017年2月よりスタートした。(次項関連記事)

日吉歯科の進化は止まらない。

現在、富士通が開発した「歯の健康ファイル」というクラウド上のサービスを活用して、初診からメンテナンスに至るまでのレントゲンや写真、むし歯や歯周病のリスクなどの検査結果を、患者さんに情報提供できるシステムの稼働を開始した。そうすることによって、口腔内の情報が身近になり、治療、メンテナンス、患者のホームケアの質が問われるようになる。また、平田牧場、富士通を始め、多くの企業が社員のためにメンテナンスの費用を福利厚生として補助しており、その他準備中の企業も多々ある。同制度は、湖池屋でも2017年2月よりスタートした。(次項関連記事)



「東京でも世界に誇れる口腔健康を一緒に」 予防歯科の若きトップランナー「日吉歯科汐留診療所」 熊谷直大所長インタビュー



日吉歯科汐留診療所の皆さん



Profile
 日吉歯科汐留診療所長
 熊谷直大さん
 1980年生まれ、山形県酒田市出身。
 2005年 新潟大学歯学部卒～
 2006年 タフツ大学歯科大学院審美歯科
 専攻過程修了。
 2009年 同大学歯科大学院補綴専門課程修了
 米國歯科補綴専門医。
 2009年～ 日吉歯科診療所 歯科補綴専門医。
 2010年 同大学大学院修士課程修了～
 2015年 同大学兼任講師。
 2012年 米國歯科補綴ボード認定専門医。
 2013年～ 新潟大学非常勤講師。
 2015～16年 東京工業大学非常勤講師。
 2016年～ 日吉歯科診療所汐留所長
 現在に至る

Q 日吉歯科汐留診療所を開設された経緯について教えてください
 2014年10月にNHKの番組「プロフェッショナル」仕事の流儀」にて、熊谷崇理理事長が取材を受けて、予防歯科の認知が大きく広まりました。その後、東京を含め日本全国から「生涯、自分の歯で過ごすことを望む人たちが」、酒田まで来るようになった。特に東京からは多かったですね。そのような遠方から来院される方々がとても増えたので、東京にも日吉歯科を作りたいという思いが強くなり、汐留に診療所をオープンしました。

Q どのような患者様がいらっしゃるのでしょうか

歯を失う原因の90%以上が虫歯と歯周病ですが、どちらもお口の中の細菌によって引き起こされる病気です。人によって病気になるやうい、なりにくいはあるのですが、ほとんどの人で継続的なメンテナンスによって細菌の数を少なく維持し、発症させないようにすることが可能です。既に日吉歯科酒田診療所は約37年間で、酒田市の人口約10万人に対して1万5千人の患者さんが、歯を失わず、自分の歯で健康に過ごしていくために、(歯が)痛いか、お口の具合が悪くなくても定期的に来院してメンテナンスを受けています。そういう人達が、10年、それ以上と経ってもほとんど歯を失わないデータが出ていますので、ここ(汐留)で同じ様にメンテナンスを始められる方が多くいらっしゃいます。汐留診療所は2016年3月末のオープンから12月末まで、延べ4,000人以上の方々が来院されております。その人数がさらに増え続けている状況ですが、その背景には「予防の重要性」や「自分の状況」を知らなかった、という声も少なくありません。酒田診療所で20年以上メンテナンスを受けている方々は、「歯を失う本数」が全世代で平

均0.9本です。また、5歳以前から酒田診療所へ通院されている方々は、その80%の方が20歳になるまで虫歯が1本も無いんですね。そういった事が実現するのであれば、やっぱりそれは必要であるというの、皆様が当然のことだと思えますね。

Q 診療所を開設されてすぐ、連日予約で埋まってしまったとお聞きしましたが

年を重ねても歯を残したい、いつまでも健康に過ごしたいと求めている方が多いことを、汐留診療所を開設することで私たちも気づかされました。この診療所は5部屋(3部屋メンテナンス・2部屋治療室)でスタートしましたが、開設後の予約状況を踏まえ、立ち行かなくなりましたので、今年(2017年1月)より一つのフロアを借りて、工事に入っている状況です(2017年3月より6部屋目も開設)。

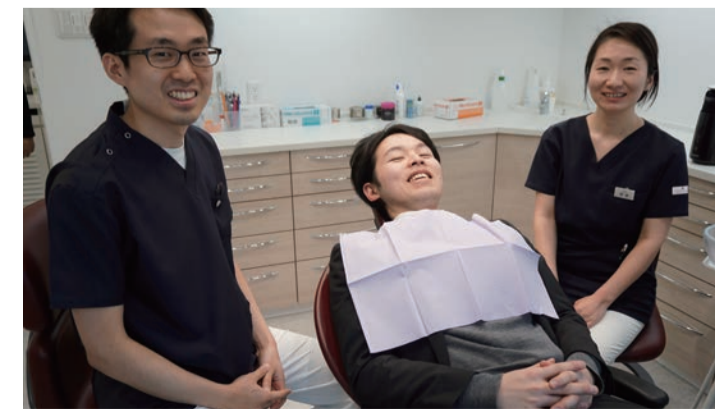
Q 先生は海外でのご経験も豊富ですが、日本の患者と歯科医療との違いはどんなところでしょうか

例えばアメリカの場合、年収250万円以上の方々は、約80%ぐらいが定期的に歯の予防メンテナンスを受けています。250万円以下の方々でも50%ぐらいはメンテナンスを受けています。アメリカ日本のように「保険」の治療がありませんので、虫歯になったり治療が必要になってしまおうと医療費が非常に高いということがあって、それを避けるために、という習慣があります。スウェーデンでは、子供の頃(20歳までは国が費用を負担してメンテナンスを受けられる、という制度を作っています)です。20歳ですと実に99%以上、20歳を超えると自己負担となりますが、それでも90%以上の人達がメンテナンスを受けています。またスウェーデンの場合は、60歳を過

ぎても約80%の方がメンテナンスを受けていると聞いています。そのような海外の事例を聞いていますと、「病気になるための医療」というのは、普遍的に必要なもので、そのような大切な「気づいているか、気づいていないか」という問題になつてくると思います。まさにお水とか、電気とか、道路とか(必要性という観点で一緒ですね)。

Q 汐留診療所に通院されている方は、予防が普遍的に浸透しているのでしょうか

そうですね、患者様がインターネットで色々勉強されたり、NHKプロフェッショナル放映後は、「カンブリア宮殿」の取材、番組放映があったりなど、「予防の重要性への」認知は確実に広がっています。さらに「予防」は自分が一生健康に生活することへの意義や価値である、という考えが以前にも増して広まっていると思います。だからといって自分の口腔内の状態が、自分で行く訳ではないですし、人によって虫歯



や歯周病になりやすい、なりにくい、も異なります。やはりきちんと歯医者で検査をし、今どういう状態なのかを確かめるために、私たちはレントゲン検査、口腔内写真、歯茎の検査、唾液の検査、様々なことをします。そこでどの様な状態になっているのかを確認し、場合によってはこのままだと歯を失う可能性がある人達には、「そうならない様な未来に変えていく」という事を、私たちはメンテナンスを通じてプログラムを作ることが出来ます。そのような役割が大切だと思っていますし、患者様もメンテナンスを経験して予防の知識や重要性を学ばれていく、わかっていくということに大きな意味があると思っています。

Q 歯医者さんで「全身の健康」というテーマを唱えられる歯科医は、現在には少ないと感じています。私たちに「新しいこと」に感じられます。(海外の様に)これを日本でも広げていくためにはどうしたら良いか、とお考えでしょうか

そういった(口腔内のケアが全身の健康につながる)可能性の高さが様々な研究からわかってきていて、それを推進する医療はもう始まっています。まずはそこで皆様が自分のお口の健康状態がどうか、を知ることからだと思います。それで(場合によっては)どのような治療が必要なのかを聞き、その先のメンテナンスのプログラムをきっちり作ってもらおう、という一連の流れを「経験する」というのが一番大切であると思います。歯が残るのは大切さだけではなくて、最終的には全身の健康に結びついていくことを実感、経験される方を増やしていく、というのが大切だと考えます。これが浸透しませんが、「始めなければ始まらない」のも事実です。そのような方々

Q 歯のメンテナンスを小さい頃から行う必要性や大切さについて教えてください

もちろん、(年齢が)早ければ早いほど歯を失わない確率は高くなるのは事実です。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが予防に関する経験や知識や習慣を持っている家族でありながら、そこに新たな家族が増えていく、というのが一番望ましいことだと思います。酒田診療所はまさに約37年もの歳月をかけて、それが出来上がってきています。最初に来院された方が今やおばあちゃんになっていて、その子供そして幼少の孫までメンテナンスに来ている、という事例は少なくありません。子供からメンテナンスをするのは良いことではあります。子供だけやっていてはだめで、やはり川上(親の方)から始められることが大切で、家族みんなが健康であり続けることに価値があると思います。

Q まだまだ予防の知識や大切さを知らない人達が多いと思うのですが

日吉歯科診療所としては、できることはそれほど多くはないのですが、予防の大切さを感じて来院されてくる方々の為に、清潔な「場所」と信頼できる「人」をできるだけ多く提供していきたいと思っています。またそれを推進、実現する為に高度な医療を提供できる人材を育てていきたいと思っています。日吉歯科のみでなく、他の様々な歯科医院に対しても、教育活動を通してサポートをしていきたいと思っています。既に毎年、年間約1,500名の歯科医療関係者の方々が酒田診療所

Q 湖池屋は社員への福利厚生制度として「歯の予防メンテナンス費用補助」を試験的に開始しました。始まりはどのような経緯で、社員へのアドバイスをお願いしましたか

(予防メンテナンスを)早く始めた方々というのは、その価値に早く気づきますし、価値を共有され、その先のステップに行かれると思います。時代の先を行き、価値を生み出すという観点から、(社員の健康に気を配る)そのような活動をされている企業は、それがプロダクト等に「にじみでてる」と思っています。また福利厚生制度への導入は素晴らしいことではあります。あくまでもきっかけにすぎないと思います。つまり、結局は「自分ごと」なので、自分の口腔内のことを歯科衛生士さんによく教えてもらうことが大切です。また、若い社員さんは、歯がなくなると思えないかもしれません。が、家族や友達、そのご家族や、歯がなくなつて苦しんでいる人達は大勢いらっしゃいます。そのようなにならないことが最も大切なのですが、なか



社員の皆様の未来が、そのように変わっていく様に、一緒に頑張りたいです。

スポーツ選手の栄養補給と口腔内ケアを考える 全日本野球協会野球指導者講習会で 乳酸菌LS1が紹介されました。

スポーツ栄養学の権威である立命館大学 海老久美子教授の講習「スポーツと栄養」を取材してきました。



作新学院高等学校 小針 崇宏 監督



2017年1月21日、私たちは「国立オリンピック記念青少年総合センター」にいました。年度野球指導者講習会「BASEBALL COACHING CLINIC」が20日〜22日の3日間の日程で行われており、野球の指導者、将来指導者を目指している方など全国から約 100名の方々が参加されました。

本年は3月にWBCが開催されることと、東京オリンピックで野球が種目として復活することもあり、受講者の方々から多くの質問が飛び交う等、熱気溢れる講習会となりました。

講演者の中には昨夏の甲子園優勝校「作新学院高等学校」の小針監督や、「福岡ソフトバンクホークス」の工藤監督など、名だたる方が講演をされていました。講習会の内容は、指導者としての正しい知識や心得、トレーニングに関することから、医学知識や栄養学、実技指導まで、指導者の資格取得のため幅広く充実したプログラムになっていました。

2 目のカリキュラム「スポーツと栄養」というテーマで講演をされたのは、立命館大学スポーツ健康科学部の海老久美子教授。海老久教授はスポーツ栄養学の権威であり、毎年この講習会で競技スポーツにおける食事、栄養補給に関する正確な知識や大切さ、有効な食事メニューの提案等を講演されています。

そんな海老久教授が講演の中で、「10代20代の人でも大変多くの方が歯肉になんらかの所見があるとされており、若い方からの口腔内ケアが大切である」ということを提議されました。特にスポーツ選手は身体づくりやコンディショニングのために、補食を含め栄養補給する回数や量が多く、頻りに口に物を入れるため、必然的に口腔内の環境も悪くなりやすいとのことでした。スポーツ選手にとって栄養を摂取する「口」のケアは、全身の体調管理において大変重要であるということも提唱されました。

スポーツの世界にとって新しいアプローチとなる、スポーツ栄養学と口腔内ケアの組み合わせの必要性とともに、具体的なホームケアの例として、乳酸菌LS1が紹介されました。競技スポーツ選手のコンディショニング、パフォーマンスと口腔内環境の相関関係については、日本



では解明されていないことが多いですが、講習会に参加された多くの野球関係者の方が口腔内ケアに興味を持っていたのだと、私たちに質問もされました。

今後もLS1を通じてスポーツ選手にも口腔内ケア、予防歯科の必要性や有効性が広がっていくことを目指していきます。



Profile 海老久美子教授

1962年生まれ、神奈川県出身。甲子園大学大学院博士課程後期課程栄養学専攻修了。現在は、立命館大学スポーツ健康科学部教授。オリンピック選手からプロ野球、高校野球、バスケットボール、ゴルフ、テニスまで幅広くアスリートの栄養サポートを担当。全日本アマチュア野球連盟医学部会委員、JOC強化スタッフ、(財)日本体育協会主催資格講習会講師。著書に「野球食」「野球食 Jr.」(ベースボール・マガジン社)など。

乳酸菌LS1推奨者 塚原謙太郎トレーナーがサポートする健大高崎高校。 3月に行われる第89回 選抜高校野球大会出場が決定！

乳酸菌LS1愛好者でもある塚原謙太郎トレーナーがサポートする健大高崎高校が見事春の全国大会切符を勝ち取りました。実際の球児たちも乳酸菌LS1を活用し、コンディション管理に役立っています。



選抜出場決定の報に喜ぶ
塚原謙太郎トレーナー

Profile 塚原謙太郎さん

1974年生まれ、東京都出身。都立淵江高校〜東北福祉大〜日本生命と硬式野球を続け、社会人でも5年間プレーしたのち、トレーニングの専門学校へ入学し、トレーナーの道へ。現在は高校野球部数校のトレーニングサポートや各種セミナーの講師を務めるなど幅広い活動を行っている。

“ 「歴代最強」の呼び声高い投手陣。春までにさらにコンディションを上げ、悲願の初優勝を目指す ”

2 昨 年末から乳酸菌LS1導入を決め、選手のパフォーマンスを向上につとめている塚原謙太郎トレーナー。その塚原トレーナーがサポートする高崎健康福祉大高崎高校（以下健大高崎高校）が見事、3月19日より阪神甲子園球場で行われる第89回選抜高校野球大会出場を決めました。

2年ぶり3回目の出場となる健大高崎高校は投手陣が「歴代最強」と言われるほどの充実ぶり、持ち前の走塁に加え、打撃力、守備力もスケールアップ。さらに12月の冬休みには塚原トレーナーの元、沖縄でキャンプを張り徹底的な実戦練習とトレーニングを積み重ね、チームの底上げを図りました。

今年のチームは「原点回帰」とい

うスローガンに掲げ、「創部15年が経ち色々な意味で慢心やうぬぼれが出てきている。創部当初のグラウンドがない時代を忘れないという意味でも、もう一度初心に帰って、高校生として大切なことを一つ一つやっていく」と思っている」という青柳監督のコメントにもある通り、挨拶などの礼儀はもちろん、授業態度や掃除、グラウンドの整備、道具の使い方など技術以外の部分を特に力を入れてきました。

高校生としてあるべき生活をもう一度見直し、野球にも活かしていくという点では塚原トレーナーが乳酸菌LS1に期待する点も同じです。実際に普段乳酸菌LS1を使用している選手たちは「体のケアに関する意識が高まり、ストレッチなども



空いた時間でよくやるようになった」「寝る前に歯を磨いていないとよく気づくようになった」など口腔内だけではない意識改善も見られ、「学校内ではインフルエンザで休んでいる人がいるが、野球部は使用し始めてから一人も風邪をひかなくなった」という声も上がりました。また、「朝起きた時にすっきりした。朝ごはんがよく食べられるようになった」という選手もいました。

甲子園では12年春のベスト4が最高成績の健大高崎高校。技術力アップはもちろん、LS1を活用したコンディショニング調整もしっかりと行い、健大ナインはチーム一丸となって、悲願の初優勝を目指します。

12月27日

現在飲用しているのは、私と娘です。私は未だ実感できていないので、粒の量を増やして飲用してみようと思います。娘は、「美味しい!」と笑顔です。また朝起きると「紙めていい?」と気に入ったようです。今後は、主人にも薦めてみようかと思っています。



1月8日

子どもが気に入っていて、毎日欠かさず口にしていました。ただ、これを口にしていれば、歯みがかなくても大丈夫と思っているので、歯磨きもやっています。

1月13日

良さを実感しているので、毎日の習慣づけが短期間でできるようになりました。今は洗面所と寝室に分けて置いて、どちらかで服用しています。朝起きたときのさわやかさが全然違います。



1月22日

娘が歯科矯正を始めてから、歯みがくのが少しむずかしく、みがき残しがある為か朝口臭が気になるようになりました。LS1を食べ始めてから口の中がさっぱりするようです。ありがとうございます。

12月24日

現在定期コースでグレープ味をお願いしております。子供たちは就寝前に乳酸菌LS1を食べるために毎日歯磨きを喜んでする様になりました。

1月16日

歯を磨いて寝る前に紙めます。口の中が朝まですっきりして居ます。

乳酸菌LS1はベルマーク教育助成運動参加商品です

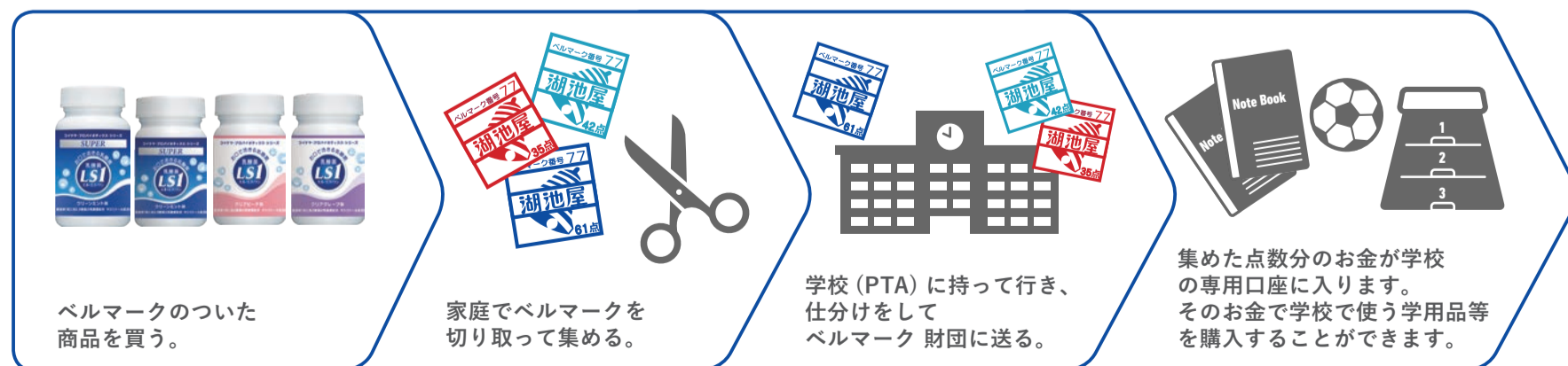
湖池屋は、教育助成運動であるベルマーク運動に賛同し、広く教育に貢献するためにベルマーク運動に協賛しています。乳酸菌LS1にもベルマークがついており、61点という非常に高い点数のものもあります。皆さんもLS1を通じてベルマーク運動に参加してみませんか。

「乳酸菌LS1 SUPER」の90粒商品は **61点** かつまずに食べてください

「乳酸菌LS1 SUPER」の60粒商品は **42点** かつまずに食べてください

「乳酸菌LS1」の60粒商品は **35点** かつまずに食べてください

ベルマーク運動の流れ



「文武両道」の秀光中等教育学校も、LS1ライフを実践中!



「勝利への口腔内ケア」がスタート! 乳酸菌LS1オフィシャルパートナーである、仙台育英学園秀光中等教育学校軟式野球部。東北で唯一「国際バカロレア(IB)」教育カリキュラムを導入した授業で知性と教養を養い、文武両道を実践しています。健やかな心身を育む同校の教育理念、取り組みについて、お話をうかがいました。



“選手たちが、健康や自分の体に対して興味、関心を持つことはすごく良いこと”

6年間の中高一貫教育の中で、秀でた知性と輝く感性を養い、今後の国際社会で力を発揮できる人材を育成する。秀光中等教育学校は、東北で唯一、国内では15校しか認定されていない「国際バカロレア(IB)」の教育カリキュラムを導入し、いち早く実践に動いている中学校です。語学力はもちろん、国際的視野を持った人材の育成が教育の理念。入試部長の高橋澄夫さんは「グローバル化が進む中、多角的で高度なコミュニケーション能力を持つ人材が求められています。カリキュラムにある、科学や音楽の授業にも力を入れ、思考力、表現力豊かな生徒が育っていることも、我が校の特徴です」と話します。今年1月には、系列高校である仙



台育英の3年生3名が全国で初めてのIBの高校課程にあたるディプロマプログラム(DP)の最終試験に合格。米ハーバード大など世界約2000大学の入学、受験資格を取得しました。文科省が200校に増やしたいと推し進めるIB制度。高橋部長は「当校では平成32年をもって、秀光前期3年間、後期3年間を『秀光コース』として新しい組織改編を進めています」と話します。

監督の須江航先生は「チームでは『勝利の口腔内ケア』と呼んでいます。選手たちが健康や自分の体に対して興味、関心を持つことはすごく良いこと。LS1による口腔内ケアという習慣が、学校生活や部活動、いろいろな所へ派生していくことを期待しています。野球部は現在、3月24日に静岡で開催する「第8回全日本少年春季軟式野球大会」に向け準備を行っています。自分で決めた目標に向かい、アクティブに心と技を鍛える選手たち。2014年夏以来、2度目の全国制覇が訪れることを、LS1は願っています。」

球児にもインタビュー(次回掲載予定) 春季大会への意気込みを語る、須江航監督

コイケヤLS1ショップ
LINE@、はじめました。

LINE@

コイケヤLS1ショップの
LINE アカウントでは、
お口の健康に関わるトピックや、
最新の予防歯科情報だけでなく
LINE 限定のお得なセール情報等も
配信いたします。
是非、皆様のお声をお聞かせください！



**[ID]
@ls1shop**

湖池屋の新じゃがポテトチップスは
「徳之島産 春一番」から始まる。

湖池屋オンラインショップ限定！
「珊瑚の恵み ポテトチップス のり塩」

<http://shop.koikeya.co.jp/shop/>



南の島 鹿児島県 徳之島産の新じゃが「春一番」。徳之島の多くの部分は、約200万年前に隆起した珊瑚礁が母台となっているため、土や水にミネラルを含み、土壌を覆う赤土は、じゃがいもを栽培するのに適した土壌だと言われています。

この恵まれた土壌で育つじゃがいも「春一番」は「じゃがいもの甘い味」「薄く柔らかい皮」「シャキシャキとした歯触り」「ジューシーでホクホクな食感」という味わいや食感、さらには「黄色く美しい断面」「大変美しいきめ細かい肌目」などが大変高く評価されています。

湖池屋今年初の《とれたて新じゃが》の美味しさをどうぞご堪能ください。

コイケヤスナック菓子紹介



通常のバターよりコクと風味が増す「発酵バター」はポリンキーのとうもろこしの生地との相性が抜群！おいしくて、おなかもよるこぶポリンキーを、今日のおやつにいかがですか？
※ヨーグルト100g当たり
100億個とした場合

こちらの商品には「LS1」とは違い「EC-12株」という乳酸菌を配合しているのですが、なんとこの「乳酸菌ポリンキー」1袋でヨーグルト※2個分の乳酸菌が入っているんです！

湖池屋ついに
スナック菓子にも乳酸菌
■ 乳酸菌ポリンキー
発酵バター味
株
株式会社湖池屋は、「乳酸菌ポリンキー発酵バター味」を2月20日より全国のスーパーやコンビニエンスストアにて発売しました。
ポリンキーといえば湖池屋を代表するスナック菓子の一つ。三角形でサクサクとした食感が魅力のコーンスナックです。発売から実に20年というロングセラー商品なのですが、この度そんな湖池屋自慢のスナック菓子に乳酸菌を入れちゃいました。

雑誌掲載

歯みがきプラス乳酸菌♪



2017年1月17日(火) 発売『美ST(美スト)』3月号にて乳酸菌LS1が紹介されました！
『美ST』は、光文社が月刊発行している、キレイであり続けたい30代後半から40代女性のためのビューティー誌です。
本誌では、「歯磨きにプラス1」のケアとして、乳酸菌LS1をご紹介いただいています。書店などでお見かけの際は、ぜひチェックしてみてくださいね♪

「美ST」3月号で
乳酸菌LS1が
取り上げられました！

